

平成 26 年 10 月 7 日

「冷凍食品業界における容器包装 3R 推進のための自主行動計画」

第 8 回フォローアップ調査結果

一般社団法人日本冷凍食品協会

<はじめに>

当協会は、2006 年（平成 18 年）3 月に『冷凍食品業界における容器包装 3 R 推進のための自主行動計画』を策定し、2010 年の最終年度に 2004 年度比で原単位あたり 3%削減の目標であったが、5.8%削減を達成した。

さらに、2012 年 3 月、新たな 2015 年度を目標年度とする「冷凍食品業界における容器包装 3 R 推進のための第二次自主行動計画」を策定した。

3 R とは、リデュース (Reduce : 減量)、リユース (Reuse : 再利用)、リサイクル (Recycle : 再生利用) のことであるが、上記の第二次自主行動計画では、このうち プラスチック製容器包装のリデュースについて「2015 年度までに 2004 年度実績比 9%削減 (原単位)」 という数値目標を定めている。容器包装リサイクル法の対象が一般廃棄物として家庭から排出される容器包装であることから、調査対象は家庭用冷凍食品の容器包装に限定している。

また、この自主行動計画では、「取組みの結果については毎年度検証し、公表する」としていることから、第 8 回フォローアップ調査 (2013 年度実績) について家庭用冷凍食品メーカー 10 社を対象に実施した。

2013 年度の家計用冷凍食品容器包装のプラスチック使用量原単位 (冷凍食品販売数量当たり) は、基準年である 2004 年度比で 15.6%減少し、前年対比で 5.7 ポイント低下した。「2015 年度までに原単位で 9%削減」という数値目標を昨年度に続き達成した。

これは、パッケージのダウンサイジングなどによる冷凍食品メーカーのプラスチック使用量の削減努力のほか、プラスチックトレイを使用していない米飯類や麺類などの販売量が大きく伸びたこと、調査対象企業が増えたことが要因として考えられる。

＜第8回フォローアップ調査結果＞

調査対象：家庭用冷凍食品を製造・販売する大手10社
 対象商品：プラスチック製容器包装を使用した家庭用冷凍食品
 指数：2004年度を100とする
 目標：2015年度までに2004年度実績比9%削減（原単位）

※原単位：冷凍食品販売数量当たりのプラスチック容器包装使用量

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
容器包装 使用量 (トン)	13,824	14,592	14,611	13,969	14,249	14,065	15,093	16,605	17,055	18,887
同 指数	100.0	105.6	105.7	101.0	103.1	101.7	109.2	120.1	123.4	136.6
製品販売量 指数	100.0	105.1	105.0	106.3	107.9	107.4	115.9	129.6	136.9	161.9
原単位	100.0	100.5	100.7	95.1	95.6	94.8	94.2	92.7	90.1	84.4

(注) 調査対象は、2004～2010年度が8社、2011及び2012年度が9社、2013年度が10社である。

